

# HP・アーカイブ作成について

## 県HP

山口県  
環境生活部・自然保護課・やまぐちの豊かな流域づくり/榎野川・榎野川河口干潟・山口湾の『里海』の再生

現在地 トップページ > 組織で探す > 環境生活部 > 自然保護課 > やまぐちの豊かな流域づくり/榎野川・榎野川河口干潟・山口湾の『里海』の再生

### やまぐちの豊かな流域づくり/榎野川・榎野川河口干潟・山口湾の『里海』の再生

ページ内目次

ページ番号：0020718 更新日：2025年2月18日更新

榎野川（ふしのがわ）河口域から山口湾に広がる広大な干潟（約344ha）は、様々な渡り鳥や野鳥が訪れ、“生きて化石”カブトガニの生息地でもあり、全国的にもとても貴重な自然で、日本の重要湿地500に選ばれています。また、かつて山口湾は、アサリなどの魚介類が豊富に獲れ、身近な『里海』として多くの人がふれあっていました。

県では、平成15年3月に策定した「やまぐちの豊かな流域づくり構想（榎野川モデル）」に基づき、榎野川の流域に関わる各主体が協働・連携して、この干潟等の生物多様性の向上、干潟・漁場機能の回復、住民が楽しめる干潟づくりなどを進めています。



#### 榎野川河口域・干潟自然再生協議会の取組

#### 新着・更新情報

- 9/6 「山口湾のカブトガニ幼生生息調査」申込書（Word：157KB）（2025年8月8日）
- 4/26 「榎野川河口干潟再生活動2025」を行いました。<外部リンク>（2025年4月27日）
- あおいニッセイ同和損害保険(株)からの寄付金の贈呈について（PDF：324KB）（2025年2月18日）
- 8/31 「山口湾のカブトガニ幼生生息調査・観察会」は、台風10号接近に伴い中止します。
- 7/20 「榎野川河口干潟再生活動2024 夏」を行いました。<外部リンク>
- 6/29 クロツラヘラサギ保全のための海岸清掃を行いました。<外部リンク>
- 4/27 「榎野川河口干潟再生活動2024」を行いました。<外部リンク>
- 2024年度年間活動計画（PDF：149KB）（2024年4月27日）
- 第36回協議会を開催しました。（2024年4月27日）
- ニュースレターNo.20を掲載しました。（2024年3月29日）
- あおいニッセイ同和損害等との相互連携協定について（PDF：277KB）（2019年2月16日）

#### 協議会について

- 設立経緯
- 自然再生全体構想
- 協議会リーフレット（PDF：8.3MB）
- 協議会紹介VTR（その他：34.73MB）

#### 協議委員・要綱等

- 委員名簿（PDF：121KB）
- 設置要綱（PDF：170KB）
- 順応的取組促進専門委員会設置細則（PDF：121KB）

#### 協議会会議

- 開催概要

#### 活動紹介

- 榎野川河口干潟の里海づくり
- ふしの干潟ファンクラブ
- ふしの干潟いきもの募金

## 山口市HP

やまぐち | エコポータル  
YAMAGUCHI CITY ECO PORTAL SITE

制度申請 条例規約 部門計画 審議会等

サイト内検索 Google 検索

ホーム

### 榎野川河口干潟での活動



干潟再生活動の紹介 榎野川流域での活動・取組紹介 生き物紹介

#### 干潟再生活動の紹介

#### 榎野川河口干潟について

干潟とは「満ち潮の時には、水面の下にあり、潮が引くと砂や泥があらわれる場所」です。潮の濃も引きにより干潟の様子は、常に変化しています。

榎野川河口干潟は、シベリアやカムチャツカから日本列島を断続して東南アジアに向かう渡り鳥たちと、モンゴルや中国から朝鮮半島を経由し四国・九州へ横断する野鳥たちのクロスロードとなっており、「日本の重要湿地500」にも選ばれています。さらに、絶滅危惧種である「カブトガニ」の生息地にもなっており、全国的にも非常に重要な場所です。

しかしながら、上中流域の浮泥流入、生活排水対策の遅れ、人口増加による様々な影響等により、カキの増殖やカキ殻の堆積、泥浜干潟の拡大、生物の量・種類の減少といった干潟生態系の改変・改質が生じ、人々とのかわりが減るなどとして、かつてのような豊かな干潟や宝の海ではなくなっていました。

こうしたことから、平成16年8月に設立した「榎野川河口域・干潟自然再生協議会」では、産官学民の連携・協働による取組を推進し、「水循環の向上」、「生物多様性の向上」、「漁場環境の改善（向上）」、「観水性の向上」により、榎野川河口干潟の『里海』の再生を目指しています。

#### 榎野川河口域・干潟自然再生の全体構想から

水産資源の減少や地域の過疎化、社会・経済状況の変化による漁業者の減少などから観水性の低下を招き、干潟では生物の生息環境の悪化や干潟底質の硬質化・無機質化が進行していました。

こうしたことから、「榎野川河口域・干潟自然再生協議会」では、産官学民の連携・協働による『やまぐちの豊かな流域づくり構想』に基づき、榎野川河口干潟の自然再生をはじめ、観水性の向上のため関係主体が連携して、様々な取組を進めています。

山口市環境政策課は、山口県自然保護課と共同事務局として、協議会の運営を行うとともに自然再生活動の取組を進めています。

■ 榎野川河口干潟・山口湾の『里海』の再生

## Facebook

榎野川河口域・干潟自然再生協議会

自己紹介

榎野川河口干潟等の『里海の再生』を目指し、産学官民の連携による取り?

ページ・地域団体

山口県

083-933-3060

a15600@pref.yamaguchi.lg.jp

pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15600/ryuuki/fushino/home.html

まだ評価はありません(レビュー2件)

写真

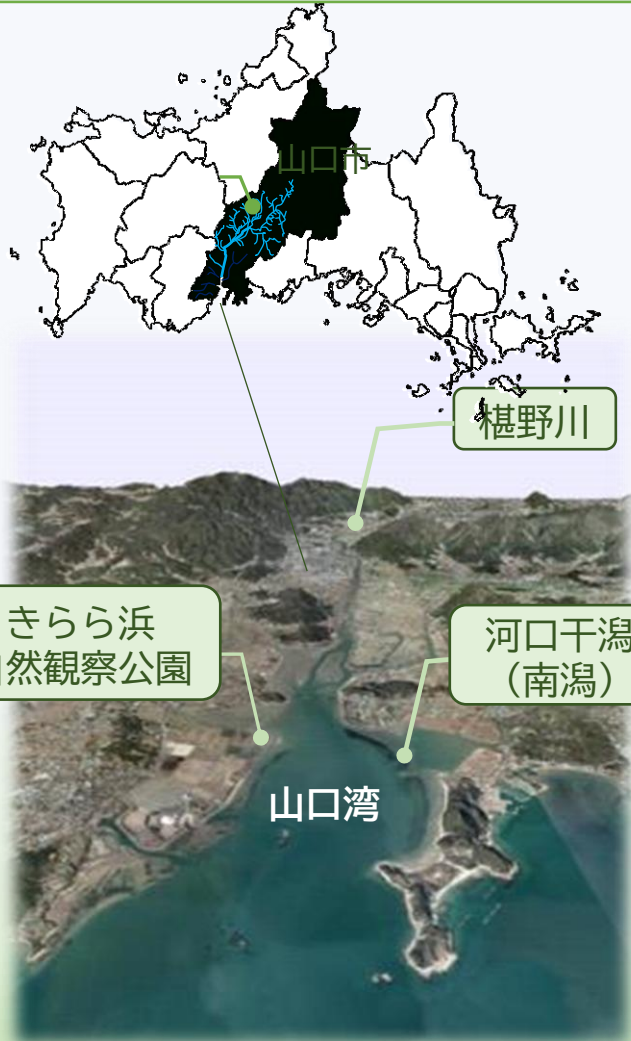
すべての写真を見る

11月3日に秋徳二島の山口湾の南潟において、ファンクラブイベント「アサリのおすまいひっこし大作戦&ミニ生きもの観察会」を開催しました！... さらに表示

4件以上

持続可能な里海づくりWG 代表 船崎美智子  
山口県環境保健センター

# 椹野川河口干潟再生活動の背景



干潟面積 約350 ha  
 特徴 日本の重要湿地500  
 カブトガニ繁殖地  
 渡り鳥の休息地

やまぐちの豊かな流域づくり（椹野川モデル）H14  
 森・川・海を育むふるさとの流域づくり  
 椹野川河口域・干潟自然再生協議会の設置 H16



阿知須 (昭和初期) 貝採りの様子

30年～50年



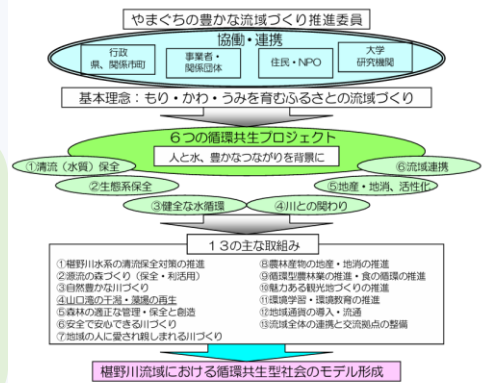
変化した干潟 無機化、硬質化

## 目 標：『里海の再生』

人が適度な働きかけを継続  
 あらゆる恵みを持続的に享受する場

人と共生してきた自然との  
 「関わり」と「場所」を  
 「回復・構築」していく

活動の柱：生物多様性の確保・多様な主体の連携



# 協議会組織

## 協議会

会長：山口大学 朝位教授（第12期協議会委員）

「自然再生」を推進するため、必要となる事項の協議：全体構想、自然再生事業の実施計画案協議、連絡調整 等

ワーキンググループ	リーダー	内容
干潟・水産資源再生WG	水産大学校 南條 准教授	アサリ、底生生物などの干潟における生物資源の再生・維持・保全を目的とした活動を実施
カブトガニWG	山口カブトガニ研究懇話会 原田 代表	カブトガニ産卵場・幼生・生息場所の保全活動、基礎調査を実施
環境学習WG	人間環境大学 後藤 准教授	環境学習を通じた干潟、生物、沿岸環境への理解促進、普及啓発
持続可能な里海づくりWG	(株) ライフスタイル研究所 船崎 代表	住民参加型の取組を推進するための施策を検討・実施
ブルーカーボンWG	山口大学 山本 教授	ブルーカーボンについての知見を収集、アマモ場を中心とした山口湾の藻場や干潟での基礎調査

ふしの干潟いきもの募金委員会

委員長 朝位会長（協議会会長）、委員：市・県関係者

ふしの干潟ファンクラブ

個人60名、団体6機関

順応的取組促進専門委員会

代表 山口大学 関根（H28 当時）

# 協議会の課題

## 継続的な課題

### 供給・調整・基盤サービス 維持

#### ○資源維持の困難性

アサリ資源の安定確保、生物多様性保全

### 文化的サービス 減少

#### ○人的資源の確保、交流の活発化

人の固定化、流動性

漁業者、活動団体構成員の高齢化

交流の減少

#### ○資金調達

個人・企業からの募金、行政予算により事業継続

→自己調達手段の確保

## 新たな課題

気候変動による水温上昇・海面上昇、海水pH低下、自然災害・天候の極端化によるリスク

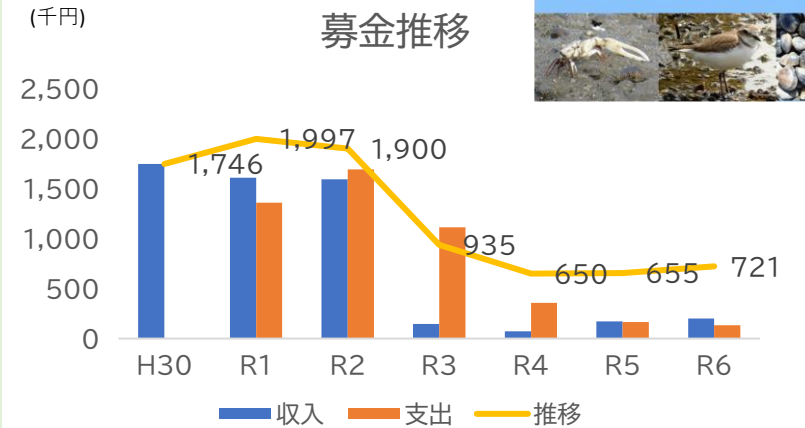
→生態系への影響、波浪による砂の影響、沿岸域の干潮帯の減少等

海洋プラ、循環型社会形成

# 活動の課題：持続可能な活動のためには



- 効率的な資源確保
- 活動資材  
被覆網・網袋再利用方法の検討
- 寄附付き商品販売数増加、  
募金の受託団体として**企業等**に選ばれるには？
- 活動者、人数の確保、ファンクラブ増員、  
協議会活動の活発化（SNSの活用）
- 活動の記録（アーカイブ）を残す
- 自然再生協議会からの新たな枠組みの検討  
（自然共生サイトなど）



## 2 会員数の推移

個人会員：制度開始当初～2019年度までは年間10人以上の会員申込

2020年度以降は、コロナ禍を除き、年間4～5人の会員申込

団体会員：制度開始当初～2019年度までに5団体、2022年度に1団体増加



# 過去資料をまとめ、次の20年に活かす 記録の作成

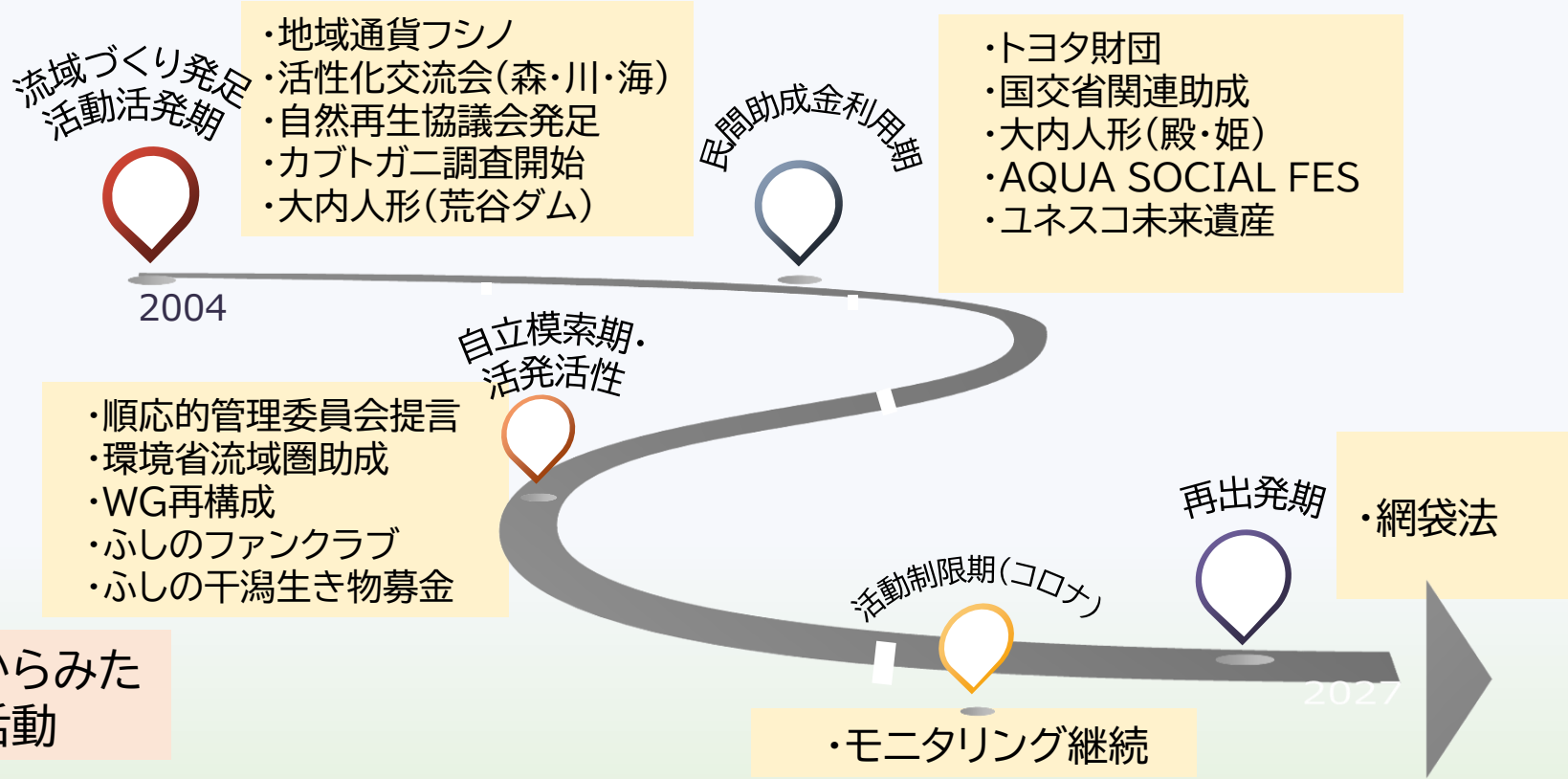
## 産学官民活動からの視点

市民・なりわいからみた活動



行政から見た  
流域づくり  
里海づくり

学術的価値からみた  
榎野川再生活動



## 生物多様性の確保の視点

『活動』の価値(得られる恵み)の  
見える化のための『指標生物』

カブトガニ



アサリ



アマモ



干潟そのもの  
食物網や 希少種  
生息に関わる種



# 目指す姿はどのように変える？

住民参加型の里海再生による  
生物多様性・『生態系サービス』の維持・向上  
社会変化に合わせた里海づくりの目的の再設定

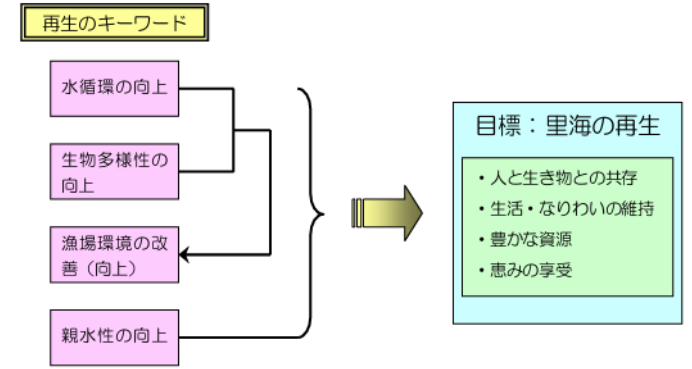


図 1-1 榎野川河口干潟等の再生の方向性



➤ 活動中期（13年前）  
漁業者も、ボランティア団体も元気！  
アサリは「なりわい化」を目指す



➤ コロナを経て・・・  
ボランティアは集まるが、肝心のコア層が減少  
活動を支えるファンは維持  
なりわい+住民活動・共生の場づくり

理想：山口湾が人と自然・流域のつながりと、生き物の多様性が豊かに維持されること

# 実施方法(案) 持続可能な里海づくりWGでとりまとめを実施

アーカイブを残し、次の世代に情報をつなぐ  
→プラットフォーム化、活動目標の設定方針の集約

## 1 令和8年度（募金から5万円拠出）

○メンバー募集(6月まで)

- ・HP作成可能な方
- ・一緒にHPの案を考えてくれる方

○プラットフォームとなるHP(10月まで)検討

- ・既存HP・SNSの情報を一元化するサイトの方向性検討・作成

○協議会委員・ファンクラブにアンケート・情報収集(1月まで)

- ・各団体の活動履歴等についての掲載
- ・これまでの活動資料の提供及び公開の可否
- ・次の20年を見据えた目標やアクションの設定に係る意見の集約

## 2 令和9年度以降

(民間支援金、募金等を活用)

○サイトの維持

○協議会委員等にインタビュー等により、活動団体ごとの取組を記録

○アンケートに基づく各者意見の集約、目標設定